

# 平成28年度 八風中学校学校教育診断 集計結果

生徒: 95%  
 回答率 保護者: 93%  
 教職員: 100%  
 菟野町立八風中学校

この「学校教育診断」は、学校教育ビジョンに基づいて取り組みました本校の教育活動を全校生徒と全保護者の皆様に診断していただくために行ったものです。本校としては、この診断結果及びアンケートに書いていただいた個別の意見を十分検討して、平成29年度「八風中学校教育方針」と「学校教育ビジョン」を策定する予定ですが、今回の結果や考察、並びに今後の診断の在り方等についてのご意見やご感想、ご助言をいただければ幸いです。(平成29年2月)

■この「教育診断」は、学校教育全般を、「教育目標」「学習面」「生活面」「家庭や地域の信頼に応える学校づくり」の4つの領域に区分し、それぞれの領域を複数の診断内容で診断していただきました。  
 (1)、(2)が「教育目標」、(3)～(8)が「学習面」、(9)～(12)が「生活面」、(13)～(18)が「家庭や地域の信頼に応える学校づくり」についての診断(設問)です。  
 ■診断には4段階評価を採用しましたが、5段階評価の場合の「どちらともいえない」をなくすことで、「肯定的な評価=できた(4,3)」「否定的な評価=できなかった(1,2)」を明確にすることができたのではないかと考えます。

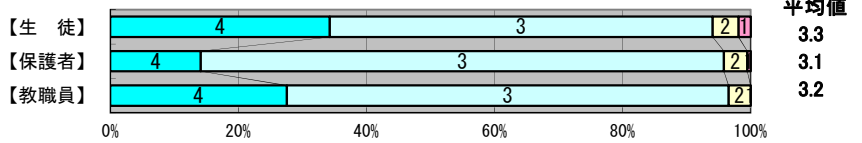
【4:よくあてはまる, 3:だいたいあてはまる, 2:あまりあてはまらない, 1:あてはまらない】

## (1) 学校教育目標・学校教育ビジョンの適正

【生徒】	学校教育目標「仲間とともに学び合い 支え合って生きる生徒の育成」は、私たちの学校生活に即している(合っている)。
【保護者】	学校教育目標・学校教育ビジョンは子どもたちの実態から見て適切なものである。
【教職員】	学校教育目標・学校教育ビジョンは生徒たちの実態に即した適切なものである。

### 集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は90%超え、保護者と教職員がともに95%超えであった。教職員の評価「4」が20%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.2P下降した。肯定的な評価は、生徒が数%(3～5%)増加・保護者が約8%増加・教職員が微増であった。



### 学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

### 今後の改善点・方向

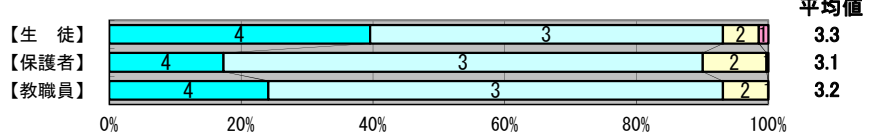
次年度も「学びの共同体」と「コミュニティスクール」を中心に据え、生徒の実態に即した学校教育目標と学校教育ビジョンにより地域に開かれた学校づくりにを推進する。

## (2) 学校教育目標・学校教育ビジョンの実現に向けた努力

【生徒】	先生たちは、八風中学校を「良い学校」にするために努力している。
【保護者】	学校の教育活動は、全体的に見て満足できる状態にある。
【教職員】	学校教育目標・学校教育ビジョンの実現に向けて適切な取り組みが行われている。

### 集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者・教職員ともに90%超えであった。教職員の評価「4」が30%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.3P下降した。肯定的な評価は、生徒と保護者が数%(3～5%)増加・教職員が微減であった。



### 学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

### 今後の改善点・方向

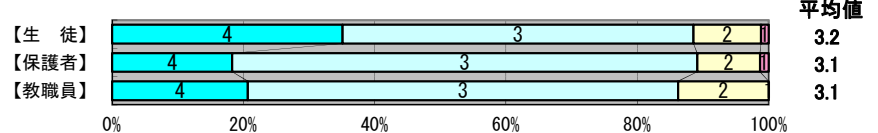
次年度も全ての教職員が、目標の達成に向けて、生徒・保護者から賛同されるように品質の高い取り組みを継続実施していく。

## (3) わかる授業

【生徒】	先生たちは、楽しくて学びがいのある授業になるように努力している。
【保護者】	先生たちは、楽しくて質の高い授業を行うよう努力している。
【教職員】	聴き合う関係、ジャンプのある学び、真正の学びを追及した授業に真剣に取り組んでいる。

### 集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者・教職員ともに約90%であった。教職員の評価「4」が25%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.3P下降した。肯定的な評価は、生徒が微増・保護者が約8%増加・教職員が約6%減少した。



### 学校関係者評価

本来、教育活動は「学力」に焦点が当たり、保護者の期待も大きい。全国学力・学習状況調査での成績はアップしているので、維持するために内部努力を継続して欲しい。今後客観的なデータの一つとして、年次追跡調査を実施する必要性がある。

### 今後の改善点・方向

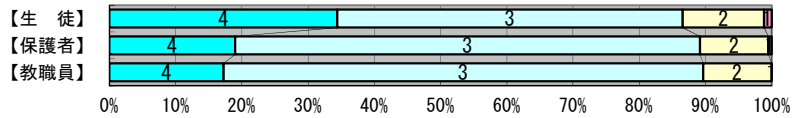
生徒が落ち着いた状態で授業が行えており、「学びの共同体」の取り組みがかなり進んでいることは疑う余地はないと考えるが、年度毎の全国学力・学習状況調査だけでなく、客観的なデータとして生徒の経年変化を追跡調査できるように検討する。

#### (4) 特色ある教育課程の編成

【生徒】	学校では、興味ある授業(総合的な学習の時間など)や行事が行われている。
【保護者】	学校では、特色ある教育活動(総合的な学習の時間・行事など)が行われている。
【教職員】	特色ある教育課程となるよう、総合的な学習の時間や行事等の工夫に取り組んでいる。

##### 集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は90%超え、保護者は約90%、教職員は約85%であった。平均値は、生徒・保護者・教職員共に前年度並であった。肯定的な評価は、生徒が約7%増加・保護者が数%(3~5%)増加・教職員が微減であった。



平均値  
3.2  
3.1  
3.1

##### 学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

##### 今後の改善点・方向

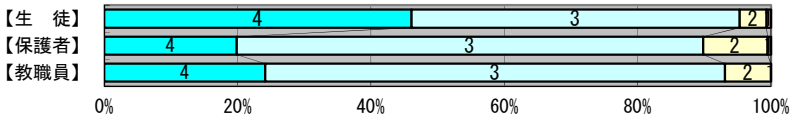
「コミュニティスクール」と「学びの共同体」を中心とした実践が、中学校及び校区の財産となるように、教育課程の内容をスクラップ&ビルドして充実した取り組みを継続させていく。

#### (5) 道徳・人権教育の充実

【生徒】	学校では、命の大切さや社会のルール、人権問題についてよく学習する。
【保護者】	学校は、豊かな心をもち人権を大切に育てようとしている。
【教職員】	「心の教育」の充実のため、道徳・人権教育の推進に努力している。

##### 集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・教職員は95%超え、保護者は約90%であった。生徒の評価「4」が8%程度減少し、「3」が増加した。平均値は生徒が0.3P下降した。肯定的な評価は、生徒が微減・保護者が微増・教職員が約7%減少した。



平均値  
3.2  
3.1  
3.2

##### 学校関係者評価

教育を取り巻く課題がさらに多様化し、学校は地域・保護者から新たな課題の対応を求められている中で、道徳・人権教育の充実が求められているため、従来の教育活動を効率的にスクラップ&ビルドして対応していく必要がある。

##### 今後の改善点・方向

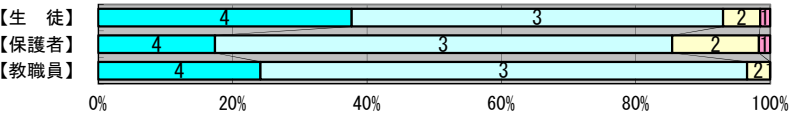
道徳の教科化を念頭に、すべての教育活動を通して、道徳教育及び人権教育を全校体制で効率的に推進していきたい。

#### (6) 進路指導の充実

【生徒】	学校では、将来の進路について学習をしたり、情報を知らせてもらったりしている。
【保護者】	学校は、進路や生き方の学習に力を入れている。
【教職員】	生徒一人ひとりの興味・関心、適性に応じた進路選択ができるよう、3年間を見通した進路指導やきめ細かい情報提供を行っている。

##### 集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は90%超え、保護者は約85%、教職員は95%超えであった。平均値は、生徒・保護者・教職員共に前年度並であった。肯定的な評価は、生徒が約5%以上増加・保護者が約6%増加・教職員が数%(3~5%)減少した。



平均値  
3.3  
3.0  
3.2

##### 学校関係者評価

肯定的な評価が増加しているなかで、生徒と保護者の評価「4」と「2」に差があり、保護者への伝わり方が気になる点である。家庭で「進路」に関する話が十分行われていないのではないかと推察されるため、さらに丁寧な指導を希望する。

##### 今後の改善点・方向

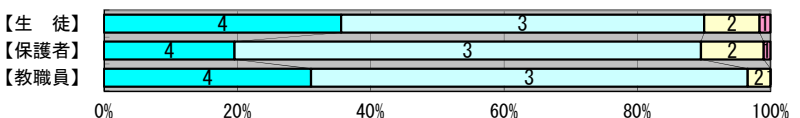
1年時からの系統的な進路指導計画に基づき、より分かりやすい情報提供と丁寧な指導を保護者への情報提供・啓発という観点も踏まえて実施していきたい。

#### (7) 適切な評価

【生徒】	先生たちは、学習の評価を適切にしてくれている。
【保護者】	学校は、学習におけるお子さんの能力や努力、学力を適切に評価してくれている。
【教職員】	すべての生徒の学び権利を保障し、その能力と学力を適切に評価している。

##### 集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者は約90%、教職員は95%超えであった。平均値は、生徒・保護者・教職員共に前年度並であった。肯定的な評価は、生徒が微増・保護者が数%(3~5%)増加・教職員が数%(3~5%)減少した。



平均値  
3.2  
3.1  
3.3

##### 学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

##### 今後の改善点・方向

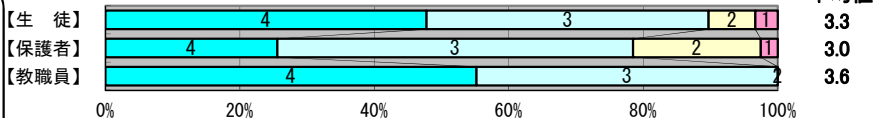
引き続き教科部会等で適切な評価方法の研修・検討を実施し、シラバスを保護者に分かり易い内容で公開することで、より生徒・保護者から納得される評価を行いたい。

(8) 「朝の読書」の有効性

【生徒】	「朝の読書」で、以前より読書するようになったり、落ち着けるようになってきている。
【保護者】	「朝の10分間読書」をしていることで、お子さんは、以前より読書に関心を持ったり、落ち着いた学校生活が送れるようになってきている。
【教職員】	「朝の読書」により、生徒たちは読書への関心が高まったり、落ち着いた学校生活が送れるようになってきている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は約90%、保護者は78%と80%を下回り、教職員は95%超えであった。教職員の評価「4」が15%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.2P下降した。肯定的な評価は、生徒が微減・保護者が微増であった。



学校関係者評価

学校と家庭の視点に差があるようだ(学校...落ち着いた学校生活、家庭...読書への関心)。生徒が利用する学級文庫だけでは偏りがあり、町図書館まで遠く、学校での図書館開館時間が短いため、生徒が読んでみたい本と出合う機会が少ないように感じる。

今後の改善点・方向

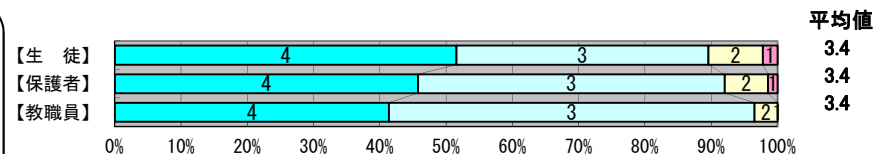
朝の読書により落ち着いた学校生活のスタートができています。今後は、読書への関心が高まり、読みたい本と出合う機会が増えるような取り組みを図りたい。

(9) 充実した学校生活

【生徒】	学校生活は楽しい。
【保護者】	お子さんは、楽しい学校生活を送っている。
【教職員】	生徒は、伸び伸びと学び、充実した学校生活を送っている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は約90%、保護者は90%超え、教職員は95%超えだった。教職員の評価「4」が15%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、生徒・保護者・教職員共に前年度並であった。肯定的な評価は、生徒と教職員が微増・保護者が微減であった。



学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

今後の改善点・方向

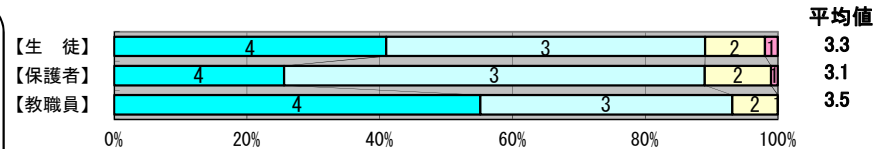
Q-U調査の有効活用とそれのための研修会の継続実施など、より緻密な生徒理解を図る取り組みを継続したい。

(10) 生徒指導上の問題への対応

【生徒】	先生たちは、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる。
【保護者】	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。
【教職員】	いじめや校内暴力などの生徒の問題行動が起きたとき、組織的に対応できる体制が整っている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者は約90%、教職員は90%超えであった。教職員の評価「4」が15%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.2P下降した。肯定的な評価は、生徒が微減・保護者が微増・教職員が数%(3~5%)減少した。



学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

今後の改善点・方向

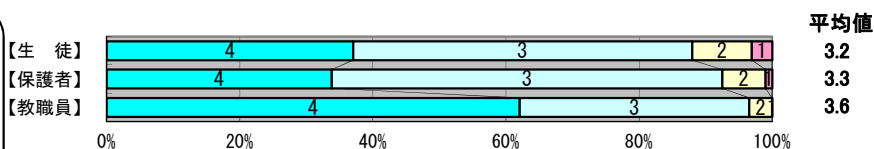
学校が落ち着いていることで満足せず、ふれあいタイムや教育相談、Q-U調査等で、生徒の状況把握や理解を推進し、適切かつタイムリーな指導をすることで、いじめや暴力のない学校づくりを推進したい。

(11) カウンセリングマインドに基づく生徒との関わり

【生徒】	先生たちは、親身になって接してくれる。
【保護者】	先生たちは、お子さんに親身になって接してくれている。
【教職員】	生徒とのふれ合いを大切にして、生徒の心に寄り添う生徒指導に努めている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は約90%、保護者は90%超え、教職員は95%超えだった。教職員の評価「4」が10%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、生徒・保護者・教職員共に前年度並であった。肯定的な評価は、生徒と保護者が微増・教職員が微減であった。



学校関係者評価

「ふれあいタイム」の継続実施等で、教職員は生徒の関わりを大事にしているが、そのことが当たり前(「空気」のような存在)になっていると思われる。学校が平和であることの証ではないか。ただし、肯定的な評価をしている生徒が10%存在することには留意されたい。

今後の改善点・方向

定期的な教育相談や休憩時間等での「ふれあいタイム」の取り組みにより、生徒にとっては常に「空気」の様に自然な状態で、親身になって関わっていききたい。

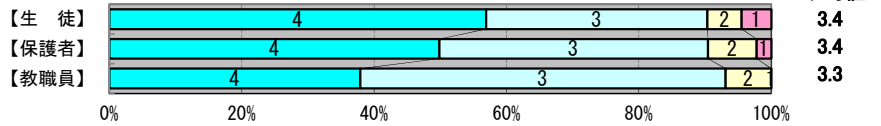


(12) 部活動の充実

【生徒】	部活動は、楽しく充実している。
【保護者】	お子さんは、部活動に喜んで参加している。
【教職員】	課外活動の役割を認識し、部活動の指導に取り組んでいる。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者・教職員ともに90%超えであった。教職員の評価「4」が15%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.2P下降した。肯定的な評価は、生徒と保護者が微増・教職員が数%(3~5%)減少した。



学校関係者評価

教師の負担増が心配である。現在の学校体育から社会体育の転換が大切であると思われる。今後、地域や保護者のバックアップが大変重要になるとと思われる。

今後の改善点・方向

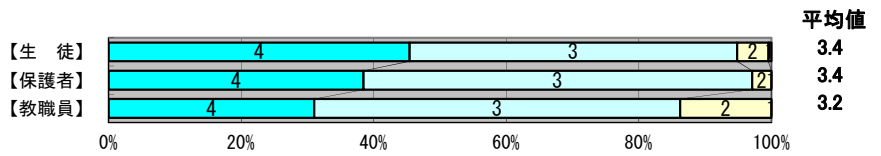
生徒にとって、興味・関心が高く、学校生活の中での比重が高い活動であるため、今後も生徒と向き合える時間を確保するとともに、地域・保護者への協力も要請していきたい。

(13) 保護者や地域の人たちとの連携

【生徒】	授業参観や総合的な学習の時間等で、家族や地域の人たちが学校へ来ていただく機会がある。
【保護者】	学校は、保護者や地域の人たちに授業を公開したり、子どもたちが地域の人たちに教えてもらう機会を設けている。
【教職員】	「地域に開かれた学校づくり」を目指し、保護者や地域の人たちとの連携を大切にしている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者ともに95%超え、教職員は約85%であった。教職員の評価「4」が25%程度減少し、「3」「2」が増加した。平均値は、教職員が0.4P下降した。肯定的な評価は、生徒と保護者が微増・教職員が10%以上減少した。



学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

今後の改善点・方向

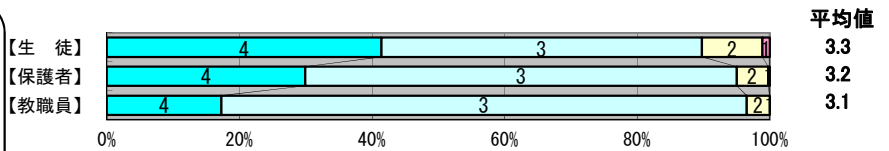
コミュニティスクールは学校の教育活動の品質向上に大きく貢献する活動であるため、今後も「地域に開かれた学校」・「地域とともに歩む学校」づくりを推進していきたい。

(14) 危機管理体制（安全対策）

【生徒】	安心して学校生活を送ることができる。
【保護者】	学校は、お子さんが安心して学校生活が送れるよう安全に配慮している。
【教職員】	生徒たちが安全な学校生活が送れるよう日常的に安全指導を行ったり、不審者対応などの不測の事態に対処できる危機管理体制が整っている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引続き生徒・保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、生徒は約90%、保護者・教職員はともに95%超えであった。教職員の評価「4」が30%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.3P下降した。肯定的な評価は、生徒が微減・保護者と教職員が微増であった。



学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

今後の改善点・方向

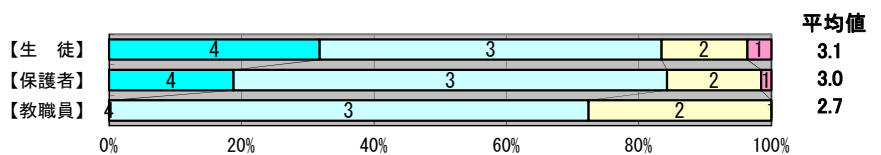
平穏な日々ではあるが「ヒヤリ!」「ハッ!」とする場面はある。危機管理意識を高く持ち、危機に対する小さな変化も見逃さず、未然防止の取り組みを継続していきたい。

(15) 学校施設・設備の環境整備、有効活用

【生徒】	学校の施設や設備は、学習や部活動・行事などをする上で、快適・安全に整備され、使いやすい。
【保護者】	学校の施設や設備は整備が行き届いており、お子さんが快適・安全に学校生活を送ることができる環境となっている。
【教職員】	学校の施設や設備は、学習や部活動・行事などをする上で、快適・安全に整備され、有効に活用されている。

集計結果・前年度比

平均値は、生徒・保護者は3.0を超えたが、教職員は3.0を下回った。肯定的な評価の割合は、生徒・保護者ともに約85%、教職員は約70%(最下値)であった。教職員の評価「4」が30%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.3P下降した。肯定的な評価は、生徒と保護者が微増・教職員が約7%減少した。



学校関係者評価

公共の施設であり、施設も老朽化しているため、学校独自に環境整備を進めることが難しいことは理解するが、特に、トイレ(洋式化も含め)や照明設備の改修・改善については、町および教育委員会と粘り強く交渉・要望して欲しい。

今後の改善点・方向

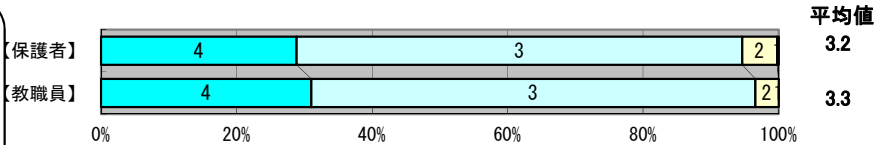
校舎の老朽化が進行し、教職員で対応できる環境整備は限られており、抜本的な対策が必要となることが多い。引き続き、町および教育委員会に予算要望を進めたい。

(16) 情報発信の努力

【保護者】	学校は、懇談会や学校通信などで教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えている。
【教職員】	懇談会や学校通信などで、教育方針や学校の様子を保護者や地域にわかりやすく伝えている。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、保護者・教職員ともに95%超えであった。教職員の評価「4」が25%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.3P下降した。肯定的な評価は、保護者が微増・教職員が微減であった。



学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

今後の改善点・方向

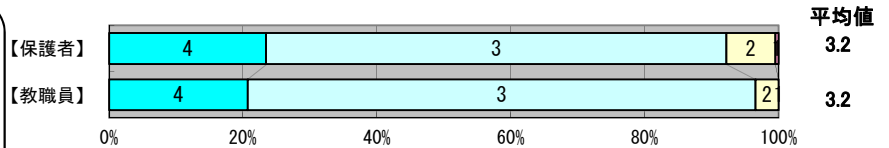
本校の教育活動情報を、Webや、学校通信、学年・学級通信等で更に積極的に発信し、双方向の関係を構築できるようにも検討する。

(17) 情報受診の努力 (保護者・地域の願い・思い)

【保護者】	学校は、親や地域の人たちの願いや思いを受け止める努力をしている。
【教職員】	家庭訪問や地域の行事への参加などを通して、保護者や地域の人たちの願いを掴むように努力している。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、保護者は90%超え、教職員は95%超えであった。教職員の評価「4」が30%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.2P下降した。肯定的な評価は、保護者が微減・教職員が約7%増加した。



学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

今後の改善点・方向

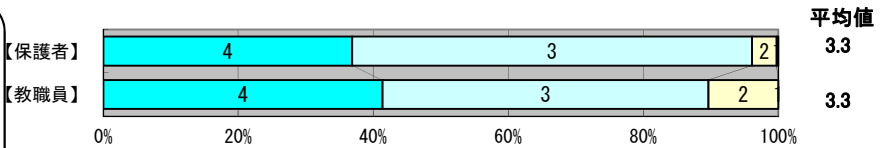
更なる積極的な対話と真摯な態度により、地域・保護者の考えを把握し、校内で共有していきたい。

(18) 教職員の対応 (接遇)

【保護者】	学校(教職員)は、電話での問い合わせや学校を訪問したときに、誠実に対応している。
【教職員】	保護者や地域の人たちからの問い合わせや来校者に対して誠実に対応している。

集計結果・前年度比

平均値は、昨年に引き続き保護者・教職員とも3.0を超えた。肯定的な評価の割合は、保護者は95%超え、教職員は約90%であった。教職員の評価「4」が25%程度減少し、「3」が増加した。平均値は、教職員が0.3P下降した。肯定的な評価は、保護者が微増・教職員が約5%減少した。



学校関係者評価

生徒・保護者から、概ね適切に教育活動が行われていると評価を受けている。家庭・地域の期待・信頼に応える学校づくりが推進されていると思われるので、今後も継続されたい。

今後の改善点・方向

今後も教育公務員として、すべての教職員が意識を高め、積極的な挨拶と誠実・丁寧な対応を心がけたい。

<全体考察>

◆評価の目標達成について

◎昨年度ははじめてすべての項目の平均値が3.0を超えましたが、本年度は1項目のみ目標を達成できませんでした。

《平均値が3.0未満の項目》

○教職員＝(15)学校施設・設備の環境整備、有効活用…2.7

◎評価の目標達成率(「4」「3」評価の割合)を75%に設定したとき、昨年度はすべての項目で目標が達成できましたが、本年度は1項目のみ達成できず、その数値も昨年より低い結果となりました。

また、目標達成率が80%を超えなかったのも2項目だけであり、ほぼすべての項目で80%を超えるという高評価を得ることができました。次年度の目標達成率は80%に設定することを検討します。

《H27年度で評価が80%未満であった項目と数値》

○保護者＝「(6)進路指導」…79.1% ・ 「(8)朝の読書」…77.5%

○教職員＝「(15)学校施設・設備の環境整備、有効活用」…78.9%

《H28年度で評価が80%未満であった項目と数値》

○保護者＝「(8)朝の読書」…78.5%

○教職員＝「(15)学校施設・設備の環境整備、有効活用」…72.4%

◆全体的に見て

アンケートデータでは、昨年とほぼ同様に全般的に概ね良好な結果となっています。このような結果となった要因としては、学校教育目標の改訂や教育理念の追加、生徒の実態に合った学校教育ビジョンの見直しを行っていること、「学びの共同体」を取り入れた校内研修体制の整備や充実に向けた取り組みの推進、「コミュニティ・スクール」を取り入れた「開かれた学校づくり」への取り組みなど、教職員が共通理解の上、組織的に教育活動に取り組む具体的な手立てを積極的に取り入れたことにあると考えます。

来年度も「学びの共同体」、「コミュニティ・スクール」という大きな二本柱で学校づくりを行い、子どもたちが楽しいという学校、家庭や地域から信頼される学校づくりに全力で取り組んでいきたいと考えています。

また、全体に高評価の中で、生徒・保護者の数値が他と比較して低い項目や、数%であっても「2」や「1」という否定的な評価をしている生徒が存在することを深く受け止め、現状に満足せず学校教育活動の品質をさらに高め、地域・保護者との連携をさらに深めて教育活動を進めていきたいと考えています。